


目標 音楽の特徴を物語と関連付けて理解し、歌舞伎音楽のよさ、美しさ、そして歌舞伎の魅力について自分なりの言葉で根拠をもって伝える活動を通して、多様な音楽表現を味わって聴く力を育

時	学習活動の概要	指導上の留意点
①	<p>(ねらい) 歌舞伎の特徴、要素を知り、長唄や楽器の音色を感じ取る。</p> <p>•歌舞伎座の写真を見たり、普段自分たちが使っている言葉(例えば「鳴り物入り」「十八番(おはこ)」など)が実は歌舞伎から来ている言葉であることを知り、実際の歌舞伎を映像で観ることで雰囲気を感じ取る。</p> <p>○歌舞伎の2つの場面を観て、感じたことや気づいたことを書こう。</p> <p>•2つの違った演目の、違った雰囲気の様子を観る。1つ目は、大人数のにぎやかな場面で、長唄の華やかな音楽とともに、演技が繰り広げられる。2つ目は、静けさの中でツケの音だけが響き、見得を切って飛び六方をしながら退場していく場面で、静と動、どちらの雰囲気も感じることができる。</p> <p>•歌舞伎の歴史や音楽について知る。</p> <p>○それぞれの楽器の音を聴いて、どんな感じがしたかを書こう。</p> <p>•歌舞伎で使われる楽器の音色や長唄を聴いて、感じたことを書く。</p>	<p>○歌舞伎座のクイズを出しながら、歌舞伎を行う所の雰囲気、歌舞伎に関する言葉を知り、興味をもつことができるようにする。</p> <p>○歌舞伎の華やかさ、静と動、どちらの場面も観せて、音楽とのつながりにも気付くことができるようにする。</p> <p>○能管の「ヒシギ」という独特な高い音や、大鼓、小鼓の音色の違い、三味線の音色、長唄の雰囲気を感じ取ることができるように、一つ一つの音色をしっかりと聴くことができるようにする。</p>
② ③	<p>(ねらい) 実際に観て、歌舞伎の雰囲気、演技と音楽の息遣いを感じ取る。</p> <p>•歌舞伎を生で鑑賞する。間近で観ることで、歌舞伎役者たちの演技、音楽との息の合わせ方、衣装や舞台などの美術、そして観客も一緒に舞台に参加しているという臨場感を味わう。</p> <p>○歌舞伎のよさ、魅力を感じ取ろう。</p> <p>•ツケ打ち体験をし、舞踊、演技と音楽がどのように関わっているのかに気付く。</p>  <p>「やってみると、案外難しい・・・」 「ぴったり合わない方がいいって不思議」</p>	<p>○息を合わせることの難しさ、息が合ったときに醸し出す雰囲気を生徒が感じ取ることができるように、生徒の体験の場を設定する。</p>

・三味線の音色, 下座(黒御簾)音楽の演奏を聴く。



・「五条橋」を鑑賞し, 音楽, 舞踊, 演技が一体となって歌舞伎という総合芸術ができていることを感じ取る。



○各季節に合った音楽や戦いの場面の音楽など, 様々な下座音楽で使われる曲を聴くことで, 音楽の果たす役割について考えられるようにする。

○演目の前にツケ打ち体験をすることで, ツケが演目の中でどういう役割を果たしているか気付くことができるようにする。



POINT 1
迫力がすごい!

(ねらい) 「勸進帳」の2場面を観て, 場面の雰囲気や登場人物の気持ちが音楽とどう関わっているかを感じ取る。

④

・勸進帳を読む場面, 義経, 弁慶たちが逃げようとするのを富樫が呼び止め, 詰め寄っていく場面の2場面を観て, 音楽の特徴, 雰囲気を感じ取る。

○あらすじを知ること, 登場人物の気持ちをイメージできるようにする。また, セリフが書かれたプリントも準備し, 今どの場面が分かるようにする。

○場面の雰囲気や登場人物の気持ちが音楽とどう関わっているかを感じ取ろう。


「音楽が全然ないところがある」
「なぜだろう…」
「緊張感を出すためかなあ」

○使われている楽器の音色, 速度, 間, 強弱に注目させ, 音楽が場面の雰囲気, 登場人物の気持ちをどう表しているか考えることができるようにする。

・2つの場面から, 歌舞伎の中で音楽がどういうふうに関わっているのかを考える。
「音楽がなかったら, この場面の雰囲気はあまり出ないなあ」

POINT 2
音楽があることで, 場面の雰囲気や登場人物の気持ちを表すことができる

(ねらい) 歌舞伎をまだ観たことがない人(1年生)に歌舞伎のよさ, 魅力をプレゼンする。

⑤	<p>・今まで学習してきたことをもとに、自分なりに歌舞伎のよさや魅力をまとめて伝える。</p>	
	<p>○歌舞伎をまだ観たことがない人(1年生)に歌舞伎の魅力が伝わるようなプレゼンカードをつくろう。</p>	
	<p>・歌(音楽)・舞(舞踊)・伎(演技)の要素やその他の要素(美術,化粧など)からどんな要素について魅力を伝えるのか,キーワードをもとにプレゼンカードをつくる。 「要素って1つじゃないといけないの?」 「歌舞伎って要素が絡み合って一つの芸術になっているね」</p>	<p>○自分が学んだ歌舞伎のよさや魅力を相手に伝えることを通して,歌舞伎や歌舞伎音楽のよさを再認識できるようにする。</p>
	<p>・3人グループで,自分がつくったカードをもとに,歌舞伎の魅力をプレゼンする。</p>	<p>○最後に3人グループでミニプレゼンすることによって,自分では気付かなかった魅力に気づくことができるようにする。</p>
		<div data-bbox="948 936 1350 1200" style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>POINT 3 歌舞伎にはたくさんの魅力がある</p> </div>
	<p>・これまでの学習を振り返って,自己評価する。</p>	

～ポイント解説～

POINT 1 「迫力がすごい」⇒歌舞伎を実際に観たことのない生徒へ魅力を伝える

今回歌舞伎を題材として取り上げるにあたって,生徒に事前アンケートを行ったところ,歌舞伎を観たことがある生徒はほとんどいなかった。そこで,まずは本物を観て興味をもつことが大事であると考え,NPO 法人伝統文化みらい塾の方をお招きして,第2,3時で歌舞伎鑑賞教室を行うことにした。

歌舞伎の歴史の話をしていただいたり,化粧(隈取り)をしたり,衣装をつけたりするところを実際に観た後,ツケ打ち体験を行った。これは,事前にみらい塾の方をお願いをし,実現したものである。ツケというのは,「ツケ板」とよばれる板に木を打ち付けて出す効果音のことで,かなり大きな音がする。最初にみらい塾の方が演技(見得を切る)に合わせてツケ打ちを示した。生徒はツケがあるときとないときを観比べることで,ツケによる効果音がどのような役割を果たしているかに気付くことができた。その後,4名の生徒が代表で体験した。感想に,「僕が驚いたのが,木の音は1つの音だけじゃないということです。音を出すだけでもタイミングなどがとても難しいことが実際にやってみて分かりました。」とあるように,演技に合った音を出すのはやってみると難しいことを実感した。

そして,三味線奏者の方には,下座音楽で演奏する各季節に合った音楽や,戦いの場面の音楽などを演奏していただいた。最後に,「五条橋」の演目を演じていただいた。生徒たちは間近で繰り広げられる舞に釘付けになっていた。ツケ打ちの効果は演目の中でより発揮され,見得を切るときなどの迫力が増すと感じたこ

とが生徒の感想からも見てとれた。

以下に生徒の感想を示す。

- ・初めて生で歌舞伎を観ました。生で観ると、動作一つ一つや三味線の演奏全てに迫力があるなと思いました。
- ・ワークショップでは、木を打っていましたが、一人一人音色が違っていて、生演奏だからこそ、その時々音色を楽しめるのかなと思いました。
- ・今日歌舞伎を観てみて、とても迫力があってびっくりしました。チョンチョンという音は木で出していると分かりました。木だけであんなに響く音が出せるのはすごいと思いました。その他に、声の出し方をどうやって出しているんだろう？と思いました。大きな会場で響く声、おなかを使っていて、たくさんの経験が大事なのかなと思いました。
- ・今回、一番私がびっくりしたことは、三味線でした。ずっと日本の音楽はゆっくりしているものだと思っていたのに、とてもスピードが速くて、ポジション移動とかも複雑ですごいなと思いました。音が切れてしまう分、一つ一つが同じ形の水の玉みたいできれいだと思いました。
- ・歌舞伎のBGMとか効果音（ツケ）などは、いろいろなこと（場面や雰囲気、人物の心情など）を考えつくされていて、聴いただけでどんなことを表しているのかよくわかることなど、初めて知ったことがたくさんありました。三味線の演奏は、1つの楽器でたくさんの種類の音色があって、私も演奏してみたいなと思いました。歌舞伎にさらに興味がわいてきて（特に楽器について）、これからの学習がとても楽しみになりました。

「観るまではつまらないものだと思っていたけど、生で観るともっと観てみたいと思った」や「間近で観るととても迫力があってよかった」など、実際に観ることによって関心をもった様子が見られる。また、楽器の音色や声の出し方に興味をもった生徒も多くいた。

POINT 2 「音楽があることで、場面の雰囲気や登場人物の気持ちを表すことができる」

⇒歌舞伎と音楽の関わりについて考える

第4時では、歌舞伎の演目の中でも有名な「勸進帳」の2場面を鑑賞し、場面の雰囲気や登場人物の気持ちが音楽とどう関わっているか感じ取った。

まず、「勸進帳」のあらすじを確認することで、登場人物の気持ちを把握した。そして、台詞や歌詞が書いてあるプリントも準備し、できるだけ難解さを取り除いた上で鑑賞した。2つの場面とも2回ずつ観ることで、1回目は台詞や歌詞をたどりながら、2回目は内容を理解した上で、登場人物の動きや音楽に集中して鑑賞することができた。

1つ目の場面では、「弁慶が勸進帳を持っていないので焦る気持ちを、三味線の打ち付ける音がだんだん速くなることで表しているのではないか」という意見や、「勸進帳を読んでいる時に無音なのは、張り詰めた緊張感を表している」、「弁慶の焦りや緊張感が最高潮に達しているのを、能管の高く鋭い音で表している」という意見が出た。2つ目の場面では、「最初の方でだんだんテンポが速くなっていくのは、義経を早く行かせたいと弁慶の気持ちが早まって、前へ前へ行こうとする気持ちを表している」という意見や、「音楽の中で、いろいろな楽器が大きい音で飛び交っていたのは、弁慶側も関所側も、どちらも譲れないという気持ちが交錯していて、弁慶側はもしばれたら…という焦りが募っている」という意見が出た。どちらも、音色や速度、間、強弱に着目して聴いていることがわかる。

その後、2つの場面から、歌舞伎の中で音楽がどういうふうに関わっているか考えた。生徒から出た意見として、「しゃべっているだけではわからない気持ちも、音楽を入れることでより伝わりやすくなる」「音楽が登場人物の気持ちの高まりを表している」「台詞は人物の外側の様子、音楽は人物の内心を表している」「登場人物の気持ちだけでなく、その場面の緊張感や空気も表している」というような、歌舞伎の中での音楽の関わりを生徒なりに捉えていることがわかる。

同じ登場人物の気持ちを表すにも、静かにして全く音のない場面や、音を大きくしてテンポを早くする場面など様々な方法があるなと思いました。あと、何回も見ていると、もっと音楽のつながりが分かりそうだなと思いました。

最後の感想では、生徒Aのように「もっと何回も見たいならもっと分かりそうだな」という言葉を書いている生徒もあり、さらに観てみたいという意欲にもつながっている。

生徒Aの感想

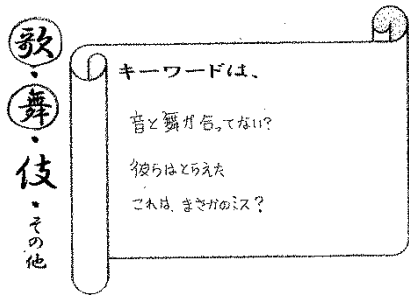
POINT 3 「歌舞伎にはたくさんの魅力がある」⇒学んで感じた魅力を伝える

第5時では、自分がこれまで学んだことをもとに、まだ歌舞伎を観たことがない人(1年生)に向けて、歌舞伎のよさ、魅力が伝わるようなプレゼンカードを作るという活動を行った。

カードの表には、自分なりに感じた歌舞伎のよさ、魅力をキーワードで表し、そのキーワードがどの要素を表しているかを○で囲んだ。半分に折ったカードの中には、キーワードをもとに具体的なよさ、魅力を詳しく書くという形にした。たくさんのプレゼンカードと一緒に掲示されている中から気になったキーワードを見て、「もっと知りたい」と自発的にカードを開いて詳しく知ることができるようにした。生徒は自分が感じた歌舞伎の魅力をどうしたらより相手に伝えることができるか考え、たくさんの視点から書く姿が見られた。このことから、今回の学びを自分の中にしっかりと吸収していることが感じ取れた。

中でも、下に載せた2人のカードには、歌舞伎ならではの音楽の特徴、よさ、魅力が出ている。普段慣れ親んでいるポップスや西洋音楽にはない日本音楽ならではのよさをしっかりと感じているのが伝わってきた。

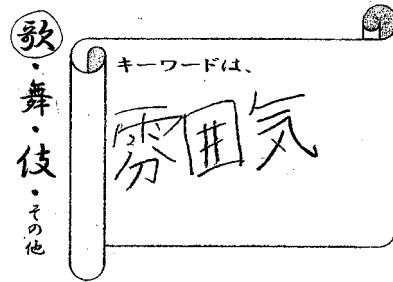
生徒Bのプレゼンカード



よさ・魅力は...

本来...
西洋の音楽や、現代の音楽では、おどりと、音楽を合わせるのが普通です。
では、歌舞伎では、歌とおどりがズレず?
いえいえ、歌舞伎でも歌とおどりは、合っています。
おどりとズレているのは... *oo* *oo* *oo* といい効果音。
ツケとは...
効果音の一種で、舞台上手に座、尻のツケが、二本の拍子木を板に打ちつけて音を出す。
ざらしている理由
役者のおどりと同じにするとか、大きくするから。
つまり... ズれているのは、わざと...
役者の六方というおどりの時意外も、足音や幽霊の登場シーンの効果音。始めと終わりの各回にもつかわれていて、注目か?

生徒Cのプレゼンカード



よさ・魅力は...

最近のドラマなどでは、主題歌が目立つことが多いけれど、歌舞伎の音楽では、様々な曲が雰囲気を盛り上げるように、効果音のように使われています。
例えば、弁慶が勧進帳を読む場面では、弁慶の緊張が、音楽のテンポが速くなることによって強調されています。
今のドラマなどとは違う音楽の使い方が新鮮なので、ぜひ注目してみてください!

また、プレゼンカード作成後、2年生同士でミニプレゼンを行った。友だちのプレゼンにふれることで、自分では気付いていなかった歌舞伎のよさや魅力にも目を向けることができた。「Dくんのプレゼンで、テレビで観るのと生で観るのでは迫力が全く違うと言っていたのですが、本当にそうだなと思いました。実際に目の前で観ると、自分で気になる人物をクローズアップして観ることができるのがいいと思いました。」と感想にあるように、生徒の学びが深まったことを感じた。

また、生徒Bのプレゼンカードや感想を見ると、歌舞伎から日本独特の文化を感じ取り、それを伝えたいという気持ちが伝わってくる。

感想

わざとズラすというところに、かっこよさを見出して
いた。歌舞伎はやっぱり日本の独特な文化だ
なと思いました。
※台本で歌舞伎を見た時、イメージも、おも
しろいなと思って、全くわかっていませんでした。

生徒Bの感想

成果と課題:教科構想に基づいて本実践を振り返る

「深い学び」を実現する場の追究として、音楽科では「ねらいに即した音楽を形づくっている要素に焦点をあてた授業展開の工夫」「子ども同士の気付きや感じ取りを深めていく場の設定や教師のはたらきかけの工夫」を手立てとしてあげている。

「ねらいに即した音楽を形づくっている要素に焦点をあてた授業展開の工夫」においては、「勸進帳」の中でも、鑑賞する場面を2つに絞り、楽器の音色や速度、間、強弱に着目しやすい音楽表現を聴かせることによって、音楽を形づくっている要素と登場人物の気持ちや場面の雰囲気をつなげて考える姿が多く見られた。しかも、音楽を形づくっている要素をこちらから提示するのではなく、子どもたちの気付きの中から導き出すことで、気付く力や感じ取る力を伸ばすことができたと感じる。

「子ども同士の気付きや感じ取りを深めていく場の設定」においては、歌舞伎を実際に観たことがない生徒がほとんどという実態を踏まえて、目の前で歌舞伎を鑑賞するという場を設定した。そうすることで、映像を観ただけではわからない演じる役者と音楽との息の合わせ方を感じることができた。また、プレゼンカードをつくった際は、最後にミニプレゼンをすることで、自分なりに感じたよさを目の前の仲間に向かって伝えようとする姿が多くあった。

「教師のはたらきかけの工夫」においては、生徒の発表を受けて、もう一度その場面を全員で観ながら確認するなどして繰り返し聴くことや、「どういう音からそう感じたのか」と問いかけて、自分が感じたことが音楽を形づくっている要素の何と結びついているのか根拠を明確にすることを通して、音楽への思考の深まりが見られた。

こうした手立てによって見えてくる子どもの姿から、音楽科で育成を目指す「気付く力や感じ取る力(インプット力)と気付いたことや感じ取ったことを言葉にして伝える力(アウトプット力)」の高まりを感じることができた。しかし、子どもが感じ取ったものを教師がどう価値付けられるかが非常に難しいと感じる。子どもの言葉を注意深く聴き、全体で共有することで学びを深めることができるように、これからも取り組んでいきたい。

(椎木 千鶴)

